

マルチメディアデジター版防災教材の作成と評価

北村弥生、村島完治、東江浩美、鈴木繭子、深津玲子
国立障害者リハビリテーションセンター

目的: プリントディスアビリティがある人による読みに有効であることが示されているマルチメディアデジター版(以下、デジター版)に「自閉症の人のための防災・支援ハンドブック: 本人・家族編」を変換し、その有用性について支援者から評価を得る。

背景: 地震等の災害が起こるたびに、自閉症児者の困難が指摘されるが、具体的な準備方法は、よく知られていない。平成20年に、社団法人日本自閉症協会は、国際的にも初めて「自閉症の人のための防災ハンドブック」(以下、ハンドブック)を刊行し、東日本大震災で全国の支援者に活用された。しかし、自閉症者本人が文字が読めなければ、「本人・家族編」でも読めない場合がある。

方法:

(1) デジター版の作成

自閉症協会(编者)の許可を得て、HPからダウンロードしたpdfから本文(テキストファイル)と画像(jpeg)ファイルを抽出し、編集ソフトsiguna(DAISYコンソーシアム)により、朗読音声を使用してマルチメディアデジター版を作製した。

デジター版では、すべての本文からなる本人・家族版と、「読んでね」マークとルビが着いた部分のみからなる本人版の2種類を作成し、ルビ付き部分は女性に、ルビなし部分は男性に朗読を依頼した。

公開に際しては、第一著者のサイトからダウンロードできるようにした。再生ソフト(Easy Reader Express, Dolphin社)を同梱し、Windowsパソコンであれば、再生ソフトのインストールは不要とした。

(2) 調査

全国の都道府県および政令指定都市に86カ所設置されている発達障害者支援センターのうち専用サイトで接続している84カ所にオンラインで調査を依頼し、48カ所から回答を得た(回収率57.1%)。

デジター版は回答者にダウンロードすることを依頼した。質問項目は、デジター版に関する評価(操作性、提供したい対象)であった。

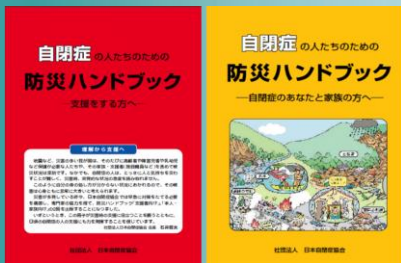


図1 防災ハンドブック(初版)の表紙

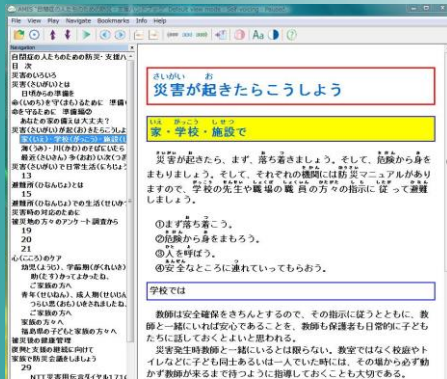


図2 デジター版防災ハンドブックの表示画面

結果:

(1) 操作性: 対象者の半数しか、「ダウンロードして見た」者がいなかった。

(2) 紹介したい対象:

・2割が、当事者に紹介したいと回答した。
・「紹介したい対象がいる」は6割に満たなかった。

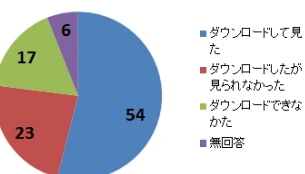
考察:

(1) ダウンロードして見るまで至らなかった理由には、同梱ソフトの制約が考えられ、CDでの配布と評価を実施する予定。

(2) 紹介を得られた当事者による評価を行う。

(3) 「紹介したい対象がいる」が6割に満たなかった理由を明らかにすることは今後の課題である。すでに周知されているのか、周知の意識や余裕がないのか、教材の内容が適切でないのか。

操作性



提供したい対象

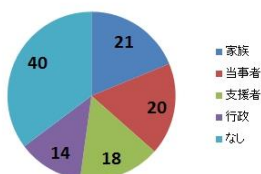


図3 デジター版防災ハンドブックの操作性と内容に関する評価